

わたると、まみは、よしおのいとじです。二人の下には、幼稚園に通っている、きみちゃんという可愛い妹もいました。

わたるたちが、東京から田舎に引っ越してきたのには、わけがあったのです。

わたるのお父さんは、東京の大きな会社で働いていました。よしおも、お盆やお正月に帰省してきたわたるの家族といっしょにご飯を食べたり、遊びに行ったりしていました。わたるのお父さんは、いかにも都会の会社員という感じで、かっしやくて優しかった。

「わたる。よしお君は、よしお兄さんだから、いろいろな事を教えてもらいなさい。よしお君、たのんだよ。」

なんて言うものですから、よしおは、わたるのお父さんのことが大好きでした。

ところが、わたるのお父さんは、東京で重い病気になってしまいました。わたるのお母さんは、小さな三人の子どもをアパートに残し、病院へ看病に行ったそうです。幼い子どもたちのことを心配しながらも、面会時間が終わっても、どうしても病室を離れることができず、ベッドのそばにたかくなて、見回りの看護師さんが部屋を出て行くのを待ったこともあったそうです。

そのかきもなぐ、わたるのお父さんは、三十五歳という若くて、いのちを去ってしまったのです。

